

Sunshine 第3回 <問題集>

Lesson 3-1: 「一般動詞の文」と「be 動詞の文」

一般動詞とは、日本語でいう「動詞」のことを言います。つまり「食べる」「歩く」といった動作を表す単語です。これらの単語が入る文が「一般動詞の文」となります。

【一般動詞とは】

(1) 動作や状態を表す単語（基本的に「う段」の音で終わる）

<例> 食べる / 飲む / *好き / *ほしい

〔*日本語で言う『動詞』は基本的に「う段」の音で終わるが、like (好き) や want (ほしい) は例外。
あえて言うのであれば「好む」「求める」となる。〕

また、英語の文章は（今の段階では）「一般動詞が入らない文（be 動詞の文）」と「一般動詞の入る文（一般動詞の文）」とに分けられます。

<一般動詞の入らない文（be 動詞の文）の例>

私は医者です。 彼は背が低かったです。 あの学校は古くないです。

（日本語でいう「動詞」が入っていない）

<一般動詞の入る文（一般動詞の文）の例>

私は走ります。 彼女は英語を教えます。 彼はギターを弾きます。

（「走る」「教える」「弾く」は、日本語でいう『動詞』）

Lesson 3-2: 一般動詞の肯定文① (I / you / we / they)

英語の文は「be 動詞の文」と「一般動詞の文」に分けることができ、更に「一般動詞」の文は2種類に分けることができます。これは、主語によって分かります。

英語の文

- ① be 動詞の文
- ② 一般動詞の文

- (a) 主語が I, you, we, they（またはこれらの代名詞に置き換えられる単語）の場合
→ 一般動詞の形が変わらない（今回練習！）
- (b) 主語が he, she, it（またはこれらの代名詞に置き換えられる単語）の場合
→ 一般動詞の形が変わる（今度練習）

【一般動詞の肯定文① <I/you/we/they> : 基本の形】

I
You + 一般動詞 (+*目的語) (+～) .
We
They

*目的語=動作の対象となるもの

<今回の練習で登場する主な動詞>

run = 走る	teach = 教える	eat = 食べる
study = 勉強する	like = 好き	want = ほしい / 求める
have = 持っている / ～がある	read = 読む	practice = 練習する
play = (スポーツなどを) する / (楽器を) 弾く		

<例> I run. (私は走ります)

I study English. (私は英語を勉強します) 【目的語 (study の対象) = English】

They like ⁽¹⁾apples. (彼らは、りんごが好きです) 【目的語 (like の対象) = apples】

We play ⁽²⁾the piano. (私たちはピアノを弾きます) 【目的語 (play の対象) = the piano】

Rei and I want coffee. (レイと私はコーヒーが欲しいです) 【目的語 (want の対象) = coffee】

- (1) 「可算名詞」で一般的なことを言う場合、「**複数形**」が用いられることが多い。
- (2) 「楽器を弾く」「楽器を練習する」という場合、基本的に “**play the 楽器**”
“**practice the 楽器**” の形になるので注意！

《注意事項》

日本語とは異なり、「一般動詞」と「目的語」の足される順番が違うので注意。

- ・日本語： 私は英語を勉強します。(主語 + 目的語 + 一般動詞)
- ・英語： I study English. (主語 + 一般動詞 + 目的語)

Lesson 3-3: 代名詞の格

英語の場合、同じ代名詞でも使われる場所(主語・目的語)によって形が変化します。例えば、以下の文。日本語の文では同じ『彼ら』という言葉ですが、英語では使われる単語が異なります。

<例> 彼らは生徒です。(彼ら=主語として使われている)
私は彼らを教えます。(彼ら=目的語として使われている)

今回は「主格」「所有格」「目的格」について学んでいくのですが、もうすでに「主格」と「所有格」は練習でも登場しているので、すぐに理解できるでしょう。そのため、ここでのポイントは「目的格」をしっかり理解することです！

1. 主格 (「私は～」 「彼は～」 など主語になる形)
2. 所有格 (「私の～」 「彼の～」 のように、誰かの所有を表す形)
3. 目的格 (「私を～」 「彼に～」 のように、動詞の対象となる形)

【代名詞の格と所有代名詞：リスト】

主格 <～は・～が>	所有格 <～の>	目的格 <～を・～に>
I <私は>	my <私の>	me <私を・私に>
you <あなた(たち)は>	your <あなた(たち)の>	you <あなた(たち)を・あなた(たち)に>
we <私たちは>	our <私たちの>	us <私たちを・私たちに>
they <彼(女)らは> <それらは>	their <彼(女)らの> <それらの>	them <彼(女)らを・彼(女)らに> <それらを・それらに>

【代名詞以外の場合】

Jim <ジムは>	Jim's <ジムの>	Jim <ジムを・ジムに>
my mother <母は>	my mother's <母の>	my mother <母を・母に>

【使い方】

1. 主格 = 「私は」「あなたが」など、文の主語になる形。

<例> 私は、野球をします。 = I play baseball.
あなたは、クリスさんですか。 = Are you Chris?

2. 所有格 = 「私の」「彼の」など、誰かの所有を表す形。

<例> 私のペンが良いです。 = My pens are good.
それらは、私たちの机です。 = They are our desks.

3. 目的格 = 「私を」「彼に」など動詞の対象となる形。

<例> 私は、彼らを教えます。 = I teach them. <「教える(動詞)」の対象 → 彼>
私は、彼女が好きです。 = I like her. <「好き(動詞)」の対象 → 彼女>

Lesson 3-4: 様々なフレーズ①

英語では、2語以上の単語から成り立つフレーズが多く存在します。今回は、そのようなフレーズについて学んでいきます。

【今回学ぶフレーズ】

(1) Nice to meet you. = はじめまして / お会いできて嬉しいです。

<例> I am Hiroshi. Nice to meet you. <私はヒロシです。お会いできて嬉しいです>

(2) (just) like ~ = (まさに / ちょうど) ~ みたい

<例> You are (just) like me. <あなたは、(まさに) 私みたい>

〔補足説明〕

just には「まさに」「ちょうど」「たった」という意味がある。like は「~みたい」という意味。「好き(動)」と同じ単語なので、文ではどちらの意味で使われているかしっかり見分ける必要がある。

(3) (文の最後に足される) (,) too = ~も

<例> I like you(,) too. <私もあなたが好きです>
Nice to meet you, too <こちらこそ初めまして>

〔補足説明〕

カンマはあってもなくても OK。「私も」という場合、Me(,) too. という表現が使われる。

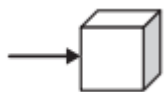
(4) Thank you (Thanks). = ありがとう

<例> A: You are smart. B: Thank you. <A: あなたは賢いです。 B: ありがとう>

(5) want to ~ (～には動詞が入る) = ~したい / ~したいと思っている

<例> I want to study English. <私は英語の勉強をしたいです>

Lesson 3-5: 前置詞② (to / for)



1. to = ~へ / ~に / ~まで <どこかに向かってたどり着くイメージ>

<例> I go **to** my classroom. (私の教室**へ**行きます)

We go **to** America. (私たちはアメリカ**に**行きます)

【例外 1】 ~ to school (学校に ~) <go to school / come to school など>

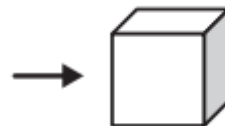
「学校へ行く」「学校へ来る」というのを「通学」「登校」という意味で使う場合、基本的に『a/an (冠詞)』や『所有格』はつけない。そのため、“go to a school” や “come to my school” といった形にはならない。

【例外 2】 go home (帰宅する) (go to home = ×)

home は、名詞で「自宅」という意味もあるが、ここでは「*副詞」として使われるため、前置詞は付かない(基本的に前置詞は名詞の前につくもの)。

*副詞とは、動詞 / 形容詞 / 別の副詞などを修飾する。ここで登場する home は、動詞「行く」を修飾する「家へ」という意味になる。

2. for = ~へ (宛て) / (朝食などの) ~のため / ~に対して
<何かに向かっていているイメージ>



<例>

They are for you. (それらはあなた宛です)

I want to buy them for my family. (私は家族のためにそれらを買いたいです)

【ポイント!】

Thank you (Thanks) for ~ing. で「~してくれてありがとう」

Thank you (Thanks) for ~ing. で「~してくれてありがとう」という意味になります。

「for ~==~に対して」という意味で使われており、~ing は「動詞すること」と訳すことができます。そのため、Thank you (Thanks) for ~ing. の直訳は「~することに対して、ありがとう」となります。

~ing の形は、日本語としてもよく使われます。例えば「ウォーキング=歩くこと (walking = walk + ing)」「スピーキング=話すこと (speaking = speak + ing)」などがあげられます。

<例> Thank you for teaching me. <私を指導してくれてありがとう>

Lesson 3-6: 様々なフレーズ②

英語では、2語以上の単語から成り立つフレーズが多く存在します。今回は、そのようなフレーズについて学んでいきます。

(1) Let's ~. = ~しましょう (～のぶ文には、動詞が入る)

<例> Let's go to your classroom. <あなたの教室に行きましょう>

(2) I see. = なるほど / そうですか

<例> A: I want to play soccer. B: I see. <A: 私はサッカーをしたいです。 B: なるほど>

(3) No problem. = (Thank you. 返しとしての) 問題なしです / 大丈夫です

<例> A: Thank you for buying my book. B: No problem.
<A: 私の本を買ってくれてありがとう。 B: 問題なしです>

(4) Really? = 本当ですか?

<例> A: You are smart. B: Thank you. <A: あなたは賢いです。 B: ありがとう>

【補足説明】

really は「本当に」という意味の副詞（名詞、動詞、形容詞だけでなく、別の副詞を説明するのに使われる単語）。

<例> I really like Japan. (私は、日本が本当に好きです)
They are really beautiful. (それらは、本当に美しいです)

Lesson 3-7: 冠詞

冠詞とは、a/an/the といったものです。もうすでに、a/an については使い方を理解していると思いますが、the については“play the 楽器”“practice the 楽器”でしか登場していないので、ここでは「the と a/an の違い」を確認しながら「the の使い方」について学んでいこうと思います。

【a/an の特徴】

- (1) 不定冠詞（特定の物を指さない冠詞）
- (2) 基本的に可算名詞（単数形）につく

<例> I have **a** new computer. (私は新しいパソコンを **1** 台 持っています)
(特定されている新しいパソコンではなく「ある新しいパソコンを 1 台持っている」という意味)
I have **an** old car. (私は古い車を **1** 台持っています)
(特定されている古い車ではなく、「ある古い車を 1 台持っている」という意味)

(3) a / an の代わりに one が使えることが多い

<例> I want **one** new computer. (私は新しいパソコンを**1台** 持っています)
I have **one** old car. (私は古い車を**1台** 持っています)

【the の特徴】

(1) 定冠詞 (文の流れや状況から、何の名詞について話しているのか特定されている時に使う共通認識を表す)

(2) 可算名詞 (単数形・複数形) だけでなく、不可算名詞にもつく

(3) 日本語では「その」と訳されることが多い

<例> I have **the** new computer. (私は、**その**新しいパソコンを持っています)
(会話をしている人たちの間では「どの新しいパソコンか」理解されている)
I have **the** old car. (私は、**その**古い車を持っています)
(会話をしている人たちの間では、「どの古い車か」理解されている)

(4) 一度登場した「(a+) 名詞」は、それ以降は「the+ 名詞」で使われる (どの名詞について話しているか限定されるため)

<例> I have a computer. **The** computer is very small.
(私は、1台のパソコンを持っています。**その**パソコンはとても小さいです)

(5) 「ただ1しかない (と考えられている)」もの

<例> 太陽 = **the** sun **The** sun is big. (太陽は大きいです)
世界 = **the** world I want to change **the** world. (私は世界を変えたいです)

(6) 名詞の一部になっているもの

<例> アメリカ合衆国 = **the** United States (of America) 太平洋 = **the** Pacific (Ocean)

(7) フレーズとして覚えた方がよいもの

<例> 午前 = **in the** morning 午後 = **in the** afternoon
夕方に = **in the** evening (ただし「夜に」は at night が一般的)
楽器を演奏する = **play the** 楽器
(日本の) ○○地方 = **the** ○○ area / region <例> **the** Kanto *area (関東地方)
*area / region = 地方 / 地域

【ポイント！】

the が入らないフレーズ

go to school (学校に行く) のような決まったフレーズの場合、本来であれば the や 所有格が入りそうな場面でも、入らないことがありますので、注意してください。

<例> I go to school. (私は学校に行きます)

<「自分が通っている学校」なので、the school / my school となってもおかしくないのだが、go to school は決まったフレーズのため、the や所有格はつかない>

【ポイント！】

よく使われる Thank you (Thanks) for the ～.

Thank you (Thanks) for ～ing (～してくれてありがとう) の形と同じように、Thank you for the ～ (～ありがとう) という形はよく使われます。例えば、

Thank you for the email. (メールありがとう)

Thank you for the present. (プレゼントありがとう)

といった文章です。感謝を伝える際、基本的に話し手の間では「何について話しているか限定されている (今回のケースでいえば「どのメール」「どのプレゼント」について話をしているのか限定されている)」ため、Thank you for the ～でよく使われます。

【the を理解するポイント】

the を理解するために必要なポイント、文章がどのような状況で使われているのか想像することです。例えば、以下の文。

I want to go to **the gym**. (私は体育館に行きたいです)

この文章では、"a gym" よりも "the gym" が使われることが多いです。なぜなら、話をしている当事者の間では「どの体育館」なのか限定されていることが多いからです。例えば会話の中で「バスケットをしたいから、体育館に行きたいです」といった文が登場した場合、お互い『どの体育館について話をしている (おそらくいつもバスケットをする体育館)』か、理解していると考えるのが自然ですよ？そのため、**the gym** がよく使われます。他にも、

I am in **the baseball club**. (学校の部活動としての「野球部」を指す場合)

といった例もあげられます。同様の理由で **supermarket** (スーパー) / **bank** (銀行) / **library** (図書館) なども、(毎回ではありませんが) 冠詞に **the** が使われることが多いです。

=====

I want to go to **the supermarket**. → 「いつも買い物に行くスーパー」という意味。

I want to go to **the bank**. → 「自分の口座がある銀行」という意味。

I want to go to **the library**. → 「学校の図書館」「いつも行く図書館」という意味。

=====

このように、the の使い方を理解するポイントは、「この文章はいったいどういう状況で使われているのかな？」と想像することです。練習でも「どういう状況で使われているのか？」を想像しながら問題を解いていきましょう！

【ポイント！】

なぜ play the 楽器 / practice the 楽器となるの？

この the には、いろいろな説があるのですが、代表的なものとして、自分が弾く・練習に使う楽器はある程度特定されているからというのがあります。例えば「私はピアノを弾きます」という文で登場するピアノは、おそらく自分のピアノ、ピアノ教室にあるピアノ、あるいはコンサート会場にあるピアノなどある程度限定されています。そのため、the がつくと考えられます。

余談ですが「(1 台の) ピアノを作る」という場合、一般的には make a piano となり the は使われません。これは「ある 1 台のピアノを作る」というように限定されないからと考えられます。